

# コースの仲間との対話及び評価を通して、 自らの清掃技術の向上に取り組む活動

【千葉県立特別支援学校流山高等学園】

\*\*\*\*\*  
～取り組みのポイント～

同輩の仲間同士が、清掃技術向上を目指してアドバイスをし合うことで、自分の強みを生かした清掃を行う。他人（審査員）の視点を入れながら自分の清掃を客観的に見られるようにする取り組み。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

---

### (1) 対象生徒

福祉流通サービス科流通コースクリーングループ（以下、クリーングループ）の1学年生徒を対象とした（男子8名）。いずれも千葉県特別支援学校清掃検定（以下、清掃検定）の意義を理解し、学習を希望した生徒である。学習中の指導内容は清掃検定の第2版を基準として活用した。また、特に意欲的な3名が清掃検定の県検定へ出場した。

### (2) 教科・領域

- ・専門教科（12単位時間／週）の中で実施

### (3) 目標

- ・清掃検定第2版の技術の習得をすることができる。

### (4) 学習計画

- ・2021障害者技能競技大会が終了した次の日から県検定前日までの32単位時間で実施

## 2. 実践の内容

---

- ・清掃検定県検定の募集に合わせ、全体に清掃検定を行う意義や目的を周知した。
- ・2021障害者技能競技大会終了後から窓清掃グループと床清掃グループに分けた。すべての生徒が期間内で両方の競技種目を体験する。
- ・「練習時間」では、グループ内のペアもしくは全員がお互いの演技を見合い、アドバイスをを行う。
- ・アドバイスは可能な限り即時評価としたが、評価内容に不安を感じる生徒の場合は教員に相談し、教員の前で伝える内容の練習を行ってからとした。
- ・否定的な発言は慎むように事前に促し、実施者の気持ちに配慮できるようにした。
- ・「採点時間」では、グループ内の生徒に加え、教員が審査員役を行った。アドバイス順は挙手制としたが、発言頻度により少ない順にした。最終好評を教員が行い、伝えたい内容を網羅できるようにした。
- ・教員の指導内容は各動作の理由を中心に行うとともに、生徒がどのような清掃を行いたいのか（安全性、機敏さ、正確性、安心感 etc）を事前に聞き取りして、自分の強みにできるようにした。

## 3. 工夫点

---

- ・練習時間と採点時間を分けることにより、即時評価ができるようにした。
- ・評価内容に不安を感じる生徒には、事前に教員が内容を受け、理論や伝え方を指導した。
- ・キャリアベシックを清掃検定練習と同時期に行うことにより、清掃の基本を学ぶ際の意識づけができるようにした。

- ・生徒同士でアドバイスし合うことにより、人からの意見を聞く練習になるようにした。
- ・単なる「お掃除」ではなく、意思をもった清掃になるように事前に「売り（他者へのメリットは何か）と強み（他者との違いは何か）」を決めた。

#### クリーングループ年間計画（第二キャンパス）

	1年	2年
4月	オリエンテーション	オリエンテーション
5月	基礎指導	ローテーションで活動 (商品管理、事務、クリーングループ)
6月	↓	↓
7月		
9月	定期清掃、窓清掃	定期清掃、窓清掃
10月	定期清掃、WAXがけ	定期清掃、WAXがけ
11月	特別教室清掃、WAXがけ	特別教室清掃、WAXがけ
12月	トイレ清掃、水道磨き	トイレ清掃、水道磨き
1月	剥離清掃	剥離清掃
2月	剥離清掃、階段のWAXがけ	剥離清掃、階段のWAXがけ
3月	教室、廊下のWAXがけ	教室、廊下のWAXがけ

#### 4. 実践の評価（成果と課題）

##### (1) 成果

- ・清掃検定の内容は基礎的・基本的な内容のため、この学習で清掃の方法を学ぶことは大きなメリットとなる。本校はキャリアチャレンジ（※1）を実施しており、今回の内容を他コースの生徒にそのまま伝達している。その際に、自信をもって理論や考え方も踏まえながら伝えることができた。
- ・自分の目指す清掃（自分の売り・強み）を考え、相手に伝えてから実践したことで、自身の考えの中で強調すべき（伝えたい）内容が明確になった。
- ・なんとなく説明をしていた生徒が、理論立てた説明やアドバイスを伝えるようになった。
- ・統一した試技内容のため、生徒同士で議論しながら活動できた。

（※1）クリーングループが他コースの生徒に対して、清掃を教える活動。



##### (2) 課題・展望

- ・清掃検定の内容だけでは、画一的な内容であるため、クリーングループの生徒が通常行う「現場に合わせた清掃」の肥やしとなるか疑問であった。あくまで別活動ととらえる必要がある。
- ・発展的な内容とするためには、各校において付加的な技術や思考錯誤を行ったり、清掃検定開催当初の予定通り「モップ」「トイレ清掃」「ポリッシャー」などの内容を行ったり、日本硝子協会が主催する「窓清掃選手権」のようなエキシビションの要素を取り入れていくことを検討している。